

10年度 第2回学校支援 ボランティアコーディネーター研修(11/4)

11月4日(木)に10年度第2回学校支援ボランティアコーディネーター研修が開催されました。今回は東京都と共催という形を取らせていただきました。各学校からボランティアコーディネーター52名が出席してくださいました。

東京都教育庁 生涯学習課の矢内正孝氏の進行により研修が始まりました。町田市学校支援実行委員会 実行委員(指導課統括指導主事)山口茂より挨拶がありました。

東京都教育委員会から、香月よう子さん(きてきて先生プロジェクト代表)、小寺良介さん(子ども未来創造協会代表)、白鳥円啓さん(板橋区立成増小学校学校支援地域本部地域コーディネーター)、水木優香さん(文京区立駒本小学校学校支援地域本部地域コーディネーター)の4人の講師の方がお見えになりました。

はじめに、司会の香月よう子講師から本日の研修の狙いと内容について話されました。次に、事例発表にうつりました。町田市より町田第一小学校の学校支援センターと連携した4年生の「縄ない」の授業ボランティアの取り組み、木曽境川小学校より地域の方による「まるつけボランティア」の取り組み(特に、学校とのコミュニケーションのとり方)の発表を行っていただきました。



都内の他地区からとして講師の白鳥さん、水木さんより、自校の取り組みの発表がありました。

これらの発表を踏まえて、小学校は7グループ、中学校はまとまって1グループの合計8個のグループワークを行いました。今回のグループ分けは、9月の地区別懇談会でいただいたご意見を生かして、健全育成委員会や民生児童委員のグループ分けにもとづいて行いました。

その後、司会の香月講師がグループワークのアンケートのなかから質問事項を選び出し、紹介しながらコーディネートし各グループでの討議を全体のものにしてくださいました。

最後に、小寺良介講師から、中学校での討議を紹介しつつ、全体をまとめてくださいました。「子どもや学校のために何かしてあげたいという想いや、ともにがんばろうという皆さんの姿勢が見えたのがいいなと思いました。」「活動するときはつらいこともあると思いますが、人と人をつなぐときには心を開いて笑顔が大切です。」と話されました。

終了後、講師の先生方から、町田市の熱気は素晴らしいですねとお言葉をいただきました。今回の研修での事例発表やグループワークの様子が、町田市が進めている「学校支援地域本部事業」であるという自信と自負を持つことが出来ました。それも、コーディネーターの皆様による、学校と地域との連携への取り組みの実践・実績によるものです。改めて感謝申し上げますとともに、今後ともよろしく願います。

第2回MGN推進会議 開催される(11/17)

11月17日(水)に、小山中央小学校にて、今年度2回目のMGNネットワーク推進協議会が行われました。モデル校12校の副校長とボランティアコーディネーターにお集まりいただき、これまでご協力いただいたモニタリングシートの集計結果と課題解決の方法、より詳しい操作説明を行いました。

このような集まりを通じて、さらに使いやすくなればと思います。また、少しずつこのシステムを利用できる学校を増やし、学校支援事業の重要な道具にしたいと思います。

● ボランティア紹介

1 学校支援センターによる登録人材紹介

今年の1月からだけで、ボランティア登録者が82名になりました。各学校からの要望に基づき、学校支援センターからの紹介校が延べ38校(延べ139名)に上りました。重複して紹介している方もいます。

しかし、1回も紹介されたり、学校から連絡を受けたりしたことのない方もおられます。そこで、学校支援センターから積極的に各学校のお近くにお住まいの登録者をボランティアコーディネーター宛に交換便にて進展扱いで紹介することになりました。各ボランティアコーディネーター様におかれましては、管理職にも見せていただいた上、何かありました折にはご活用ください。

2 書初めでボランティアの活用を

2学期末に、冬休みの課題として「書き初め」があるのではないかと思います。児童・生徒にとって、ふだんの半紙から、書初め用紙に書くことは結構難しいものです。ここでボランティアの方に指導の補助をお願いすることは、子どもたちの技能向上に有効です。

幸い、学校支援センターには、「授業ボランティア」として「書道が出来る」という方が多く登録されています。学校支援センターにお問い合わせくださり、大いにご活用ください。

3 「おりづる苑せりがや」との連携について

先日、おりづる苑長が学校支援センターを訪問され、以下のようなお話をお伺いしました。

- ・ 若年の認知症の方々への支援として、ただ世話を受けるのではなく、できることを通してその存在を自他共に確認できる活動をしたい。
- ・ 認知症の方々が社会経験を生かして社会に貢献したいという思いを大切に「仕事」という取り組みにつなげていきたい。(そろいの作業着、タイムカード使用)
- ・ 「働きたい」「人の役に立ちたい」という若年性認知症の人の願いは強く、全国的にも広がり期待できる取り組みとして活動している。

指導員の方について、学校の用務主事の指揮の下、作業を進めることが多いそうです。すでに、いくつかの学校・保育園・幼稚園などに出かけられています。仕事は、プール清掃、マット下の砂だし、下駄箱のペンキ塗り、床磨き、砂場掘り起こし、花壇整備・・・など多岐にわたっています。活動の趣旨をご理解いただき、連携を深めるようお願いいたします。なお、連絡先は、支援センターか、直接下記にご連絡ください。

〒194-0013 町田市原町田 4-26-6 せりがや会館内 電話 042-728-7413

おりづる苑長 前田 隆行(まえだ たかゆき)

ボランティアコーディネーター配置校紹介

これまで未配置校だった町田市立小山田小学校に、ボランティアコーディネーターが2名配置されました。11月16日(火)に教育委員会にお越しいただき、学校支援実行委員長の白井一生学校教育部長より、代表の小池さんに委嘱書を渡しました。安藤さんと二人で、活躍して下さるものと期待しています。

皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

1 研修に参加しての感想

- ・都内と町田市の差を感じましたが、まだまだ町田市の進め方を把握して頑張りたいと思いました。
- ・ブロック会議の後で知り合いが増えて、本音が言えるようになりました。
- ・時間が長すぎる。2時間にしてほしい。
- ・他の学校のボランティアコーディネーターの手法等をうかがえて、これからの活動のヒントになった。
- ・学校によって、かかわり方が違い、良い面は取り入れられればと思います。
- ・他の学校のあり方、それぞれの個性、それでいいのでは？との思いを強くしました。
- ・他校、他地区のコーディネーターさんとの話し合いは、とても参考になりました。
- ・東京都と町田のコーディネーターの活動や仕事、位置づけの違いを感じました。
- ・それぞれの学校活動にリンクした具体的事例が参考になりました。
- ・各学校の取組を聞かせていただき、まず、物事は1回やってみることが大事だということで、マネをすることをやってみたいと思います。
- ・事例発表に感心されました。自分も負けないように頑張りたいと思います。
- ・居場所がほしいと思う＝先生とのコミュニケーションがとれることで解決する。今後の活動の励みになります。参加してよかったです。
- ・小学校に行き、私はどのようにお話をして良いかもわかりませんでしたので、今回ヒントをいただいたように思います。
- ・とても活気があり、オドロキました。
- ・学校や先生方とのコミュニケーションの取り方、自治会、保護者からの運営資金の集め方（講師のお話より）など、具体的な方法を聞くことができ、参考になった。
- ・身近な情報を聞かせていただくことができ、また、聞くだけではなくて小人数のグループディスカッションもでき、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- ・参考になりました。やっと忙しくなってきたところなので、特にボランティアへのお礼はまったく無くてもいいのかなと考えていたところだったので。

2 今後、実施を希望する研修の内容や方法等について

- ・地区別ミーティング、関係中学とのミーティング。
- ・中学校における活動事例や活動案。中学校のボランティアコーディネーターのみでの研修等（小学校とは別物と考えていただきたいです）。
- ・実践的な研修をお願いしたい。
- ・グループミーティングはありがたいが、声が聞きづらいので小室を用意していただけるとよいと思います。小学校と中学校では体質が違うと思うので、一緒に研修以外にそれぞれの集まりの機会をもっともうけてほしい。
- ・今日の様な形式の研修は、1年目の自分のような者には本当に必要だと思います。

3 日頃、活動での課題

- ・校長先生とのコミュニケーション。学校方針をしっかりと把握する。
- ・学校への認知度をあげること。
- ・学校からの依頼が急である場合が多い。中学はどうも日時設定が遅いのかな？先生方から気軽に依頼をできないようだ→副校長(校長も?)を通さなければならないようだ。
- ・先生方のニーズを的確に把握し、活動につなげてゆきたいと考えています。
- ・地域、学校、関係を密にしての子どもたちの環境づくり。
- ・ボランティアや依頼した方たちが学校の事情がわかっていらっしやらない分、無理な日程等を提示されることが多い。コーディネーターがもっと説明しなくてはいけないのですが。

- ・”子どもたちの学習の支援”に、ボランティアさんはよくやってくさっている。その方たちが気持ちよくボランティアできるような心配りをしていきたい。
- ・先生方とのコミュニケーションをさらに密にしていくこと。
- ・学校での要望があった時、行動する。
- ・近隣小学校のコーディネーターさんの活動をよくお聞きする機会がありますが、中学校で同じような活動はしにくいという思いがいつもあります。担任制ではなく、教科ごとに先生も変わるので、連携がしにくいのだと思います。中学校は学習時間確保のため、体験型授業が少なく、支援が入りづらい。(7名)
- ・まだ1年目なのですが、少しずつ活動の場を広げていきたいと思っています。

4 本事業に関して、行政の支援に期待すること

- ・学校とコーディネーターの連絡方法が先生方で違うので混乱する。行政の方から連絡方法を出してほしいと思う。特に年数が経って、先生の異動があると、前の学校ではこうしていたという、学校毎、先生毎でバラバラになって欲しくない。町田市としての流れを一本化したほうがよい。
- ・いろいろな経験をできる授業がたくさんできたら、未来の”町田っ子”はずばらしいと思います。
- ・コーディネーター同士の交流の機会を持っていきたいですね。話し合うことで理解が深まると思っています。
- ・学校も予算が一杯一杯です。年間で使える予算を少しでもよいのでコーディネーターにつけていただけたらと思います。
- ・コーディネーター同士で連絡がとれるような資料づくりをしてほしい。中学校の先生方にコーディネーターを理解してもらえるように話しかけをしてほしい。
- ・学校や先生にもっとコーディネーターのことを理解してもらえるような働きかけをしてほしい。
- ・町田市以外の学校も見学したい(本日発表された学校など)。
- ・コーディネーター同士の交流の機会は本当に大事だと思います。現在、学校(わが校は)一人なので、何かと不便なことが多く、2人ぐらいいたら助かるのになあ、と思うことがあります。

5 その他、自由記述

- ・本日は楽しかったです。ありがとうございました。
- ・学校支援ボランティア費の予算確保、お願いします。
- ・私はこれからです。まず学校に入る、行く事だと思っております。
- ・今回初めて参加しました。コーディネーターの役割がだいぶ見えてきました。
- ・今日のグループ分けのほうがよい(忠生地区)青少年健全育成の地区と同じなので。

今回のアンケートは東京都に提出用のものですが、町田市学校支援センターとしても今後の支援のための参考として目を通させていただきました。

小学校は地域、学校の実態や校長先生の経営方針により、それぞれの学校でスタイルが出来つつあるように思いました。中学校は小学校と違い、ボランティアを活用するのが難しい状況にあります。このことは、類似の(7名)という人数が示しています。

一般的に中学校では、部活動の指導者、補習学習への支援、職場体験のオリエンテーリングなどを主に取り組んでいますが、この課題は今後も解決に向けて一緒に取り組んでいきましょう。

また、異動にともない、町田市の学校支援事業のことを十分理解できていない管理職、教員がおられます。来年度も異動してこられると思います。学校支援センターとしても広報に努めます。皆さんに置かれましても、実践を通して、このような活動を行なっているということを伝えていただきたいと思います。

年末に向けて地域行事も多く何かとあわただしくなります。お体にお気をつけられて、今後ともよろしく申し上げます。